

「大坂の史跡を訪ねて」

連載2回目

～夕陽丘周辺その2～

おみ なが 谷 よし 吉 はる 治

新選組ゆかりの地

☞ 前回のその1では、「水戸藩士ゆかりの地」をご紹介しました。

【前号の文中、桜田門外の夜三月三日を二月三日となっておりますことお詫言いたします。】

今回は、新選組ゆかりの地を2か所ご紹介いたします。

前回の「水戸藩士 川崎孫四郎自刃の所」から生国魂神社の境内(境内に「上方落語発祥の地の碑」や「井原西鶴像」があります)を通り抜けて、松屋町筋に出てみます。

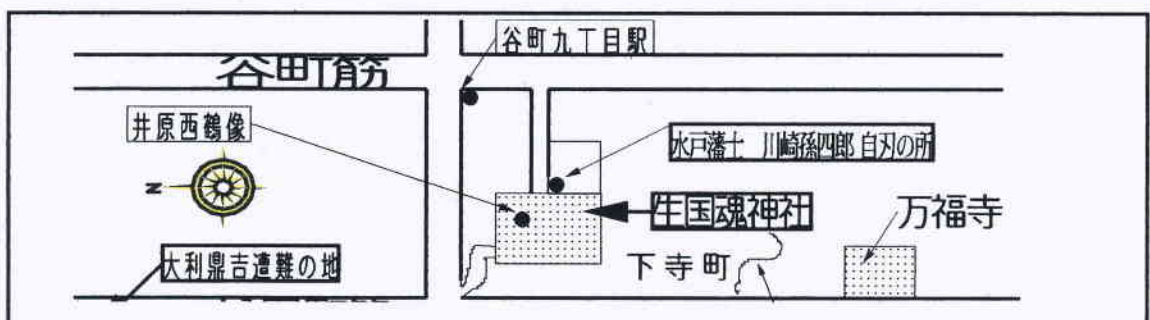
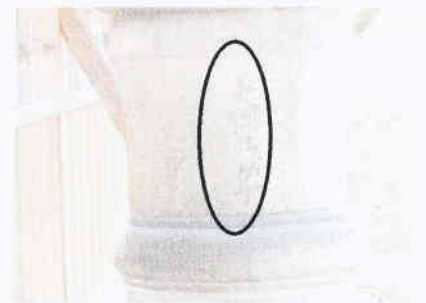
途中、坂を下り松屋町筋を南(進行方向の左)に向いて、歩いていきます。

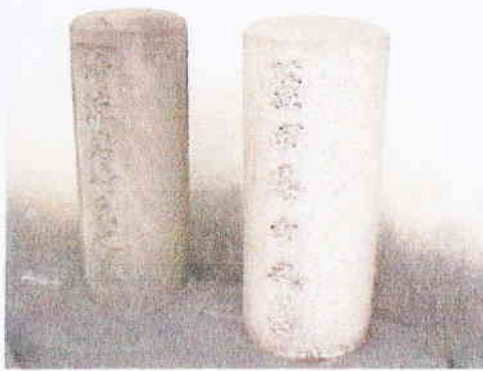
ここは下寺町(したでらまち)といい、いろいろなお寺が並んでいる通りです。そのお寺を左に見ながら、400mほど歩いたところに『万福寺』というお寺があります。この万福寺は、「新選組」の大坂屯所であったところです。残念ながら碑は建てられておらず、お寺も昭和45年の火災で本堂が焼けて新築されており、当時の面影は残されていません。唯一、天保年間に建てられた灯籠が残っており、幕末当時の姿を偲ばせてくれています。

この大坂屯所の隊長に、谷三兄弟の次兄 谷万太郎が任命され、20人ほど詰めていたようです。慶応元年5月に南堀江で私塾「玉生堂」を開いていた勤王学者 藤井藍田を倒幕の密謀を計ったとして捕らえました。その後、藍田は、この屯所で新選組の拷問に合い、耐え切れず獄死しています。

(一説には本堂の奥で槍で突かれたそうである)墓は明治5年になって、藍田の遺志により、師 広瀬旭莊(幕末期の儒者。佐久間象山らの勤王家とも親交があった)の傍らに建てられました。

場所は、大阪市天王寺区茶臼山にある「統国寺」にあり、墓の横に、正五位が贈られた『贈位記念碑』も建っています。





統国寺(天王寺区茶臼山町1丁目)にある藤井藍田の墓と藤井藍田贈位(正五位)記念碑

藤井藍田塾 玉生堂跡 (西区南堀江3丁目)

さて、大坂の新選組が取り締まった代表的な事件が「大坂ぜんざい屋事件」です。この事件は、司馬遼太郎の小説、『幕末』(文叢)中の「浪華城焼打」で紹介されています。場所は万福寺から松屋町筋を北へ約1キロ行った瓦屋町1丁目の石蔵屋というぜんざい屋で事件が起きました。このぜんざい屋の当主は、武者小路卿おおくらの元家臣 本多大内蔵といい、店は結構繁盛していたようです。事の起おこりは、元治元年9月13日、道頓堀にある旅館「鳥毛屋」とりげやに8人の浪士が逗留した事から始まります。

※鳥毛屋は、司馬遼太郎の「竜馬がゆく」第四巻のP34とP172にも出てきます。

この8人とは、土佐の脱藩浪士、大利鼎吉おおりていきち、田中顕助、島 浪間、千屋金策、井原応輔、橋本鉄猪、池 大六、那須盛馬です。彼らは、長州藩邸に出入りしていた本多大内蔵のいるぜんざい屋を訪れ、大坂城の焼き打ち計画を謀りました。

焼き玉などを造りながら準備を進めていましたが、これが新選組の知る所となりました。

きっかけは、谷 万太郎の旧主家備中松山藩の藩士 谷川辰吉の密告によります。

奉行所にも届けられましたが、その前年に京で起こった「池田屋の変」にならい、奉行所は遠巻きをし、実際は新選組に突入させることにしました。

そして、慶応元年正月8日、新選組4人(谷 万太郎、谷 三十郎、正木直太郎、高野十郎)がぜんざい屋を襲撃しました。

しかし、主人の本多と大利鼎吉しかおらず、本多は逃走に成功したものの、大利鼎吉は最後まで戦い抜きました。一人に4人という不利ながらも奮闘しましたが、ついに討ち取られてしまいます。大利鼎吉24歳でした。

現在、松屋町筋沿いに「大利鼎吉遭難之地」という石碑が建っています。この碑の文字は、田中光顕(当時の田中顕助 昭和14年、97歳まで生存)のもので、ついでに側面には、たまたま前日に詠んだという歌が刻まれています。



贈正五位 大利鼎吉遭難の碑 (中央区瓦屋町1-40)



碑の題字を書いた従二位 勲一等伯爵 田中光顕

「ちりよりも かるき身なれども 大君に ころばかりは けふ報ゆなり」

一説には、この事件がきっかけで大坂の警備の重要さを考え、万福寺に屯所が置かれたといえます。

その後、谷 三十郎はたいした腕ではないという噂が、隊内で広まったかと思うと4月1日、祇園石段下で何者かに暗殺されてしまいます。万太郎は、明治になって大坂の釣鐘町で道場を開き、大商人の用心棒などを勤め明治19年に病没。

末弟の昌武は一時、局長近藤 勇の養子になり周平と名乗っていましたが、たいした活躍もせず、鳥羽伏見の戦い頃は行方不明となっています。晩年には、山陽電鉄の下級職員となり明治34年病没しました。

大坂での、新選組の記録はまだありますが、今回は夕陽丘周辺内で起こったできごとにとどめておきたいと思います。

では、次回の「夕陽丘周辺その3」をご期待ください。

※参考文献：創元社「大阪歴史散歩」徳永真一郎 著
中公文庫「新選組100話」鈴木 亨 著
東方出版「大阪墓碑人物事典」近松譽文 著